

あつまれ! みんなの声

このコーナーは、「みんなの面」として、人権啓発・人権教育に関わる皆さまから投稿していただいています。今回は、協力企業部会からの声を届けていただきました。

『地域に根ざした企業として』

私ども山崎製パン(株)大阪第一工場は、昭和41年に吹田市幸町にて業務を開始しました。以来45年間、地域の皆様のご協力のもと、社業でございますパン・和洋菓子の製造販売をさせていただいております。

会社は従業員、お取引先、お客様、地域の皆様などに関わりを持って活動しており、これらの皆様の信頼や理解が無ければ企業活動は成り立ちません。そのため、弊社では人権の視点にたった取り組みを行なっております。新規入社者を対象とした研修をはじめ各種の研修を実施すると共に、人権委員会を組織して人権について周知しています。また、人権週間にあわせて標語の募集やイベントを開催し、従業員の人権啓発を図っております。吹田市人権啓発推進協議会・吹田商工会議所主催の企業研修会にも毎年従業員を出席させていただいており、感謝しております。

そうした取り組みを通じて、従業員が明るく楽しく元気よく働ける、風通しのよい職場づくりを心掛けて、地域に根ざした企業活動をして参ります。

協力企業部会 会長 土屋 一岳
(山崎製パン(株)大阪第一工場 人事課長)

新規パネルの紹介

新しく4種類の人権啓発パネルが完成しました。作成にあたり、人権協内で『パネル検討委員会』を立ち上げ、作成したものです。今回のパネル作成において、イラストやキャッチフレーズ制作にご協力いただきました市民塾「吹田イラストレーター育成塾」師範・玉置 輝さんと、塾長・きくち ひろこさんのお二人に、インタビューをしました。



人権啓発というと、難しく硬いテーマでついつい身構えてしまいがち…。そんなイメージを変えるためにも、わかりやすく、子どもたちにも関心を持ってもらえるようなイラスト、キャッチフレーズを考えました。私たちは、本来人権とは、「おはよう、こんにちは」の挨拶のように、日常、何気なくしていることの延長線上にあるもので、特別なことではないと思っています。人権啓発は、大人だけで取り組むものではなく、子どもの時から関わっていくもので、楽しく自然に関わっていけるような環境が、必要ではないでしょうか。そんな環境づくりのお手伝いをイラストを通してできたら嬉しい限りです。

次世代の「思いやりの花」を育てていけるような取り組みを人権協に期待します。今後も、私たちにできるお手伝いがあれば、協力していきたいと考えています。



*それぞれのパネルは、英語訳、韓国朝鮮語訳、中国語訳の3種類の小サイズパネルも作成しております。是非、各地域での行事でご利用ください。



発行／吹田市人権啓発推進協議会

このパンフレットは、4,000部制作して、1部あたりの単価は40.00円です。

吹田市 権協だよ



じんけんネット吹田

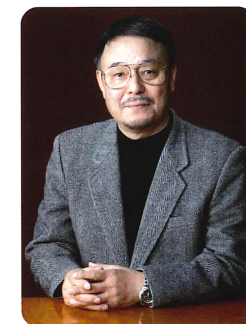
No. 31

平成23年(2011年)11月

—2011—

人権フェスティバル ヒューマン・ライツ コンサート

～音楽でつながる『友情の輪』～



まつもと しずお
解説 松本 城洲夫さん



演奏 アンサンブル・サビーナ

●日時 12/4(日)
13:30～16:00
●場所 メイシアター 中ホール
入場無料 手話通訳あり

ちがいを認め合い、共に生きることのできる社会をめざし、「人権フェスティバル」を開催します。

今回は、「友情」をキーワードに国内外で活躍されている管弦楽団のアンサンブル・サビーナをお招きしてのコンサートです。

イタリア生活文化交流協会会長の松本 城洲夫さんに人権の視点から演奏曲の解説を分かりやすくしていただきながら、クラシック音楽から童謡

まで幅広く聴いていただきます。

また、小・中学生を対象とした「じんけん作品」入賞者の表彰式も行います。子どもから大人までお楽しみいただけるコンサートです。皆さんの多数のご参加をお待ちしています。

同時開催

■じんけん作品・パネル展 12/3(土)～9(金) 10時～17時メイシアター 1階展示室
■人権に関する書籍の紹介 市立図書館各館、男女共同参画センター図書コーナー

夢つながり未来館がオープン

～夢・つながり(であう場 はじまる場 ひろがる場)～

「夢・つながり(であう場 はじまる場 ひろがる場)」を合言葉に、子育て支援、青少年支援、そして図書館が一体となった「吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館」が本年3月27日にオープンしました。館内は連日、たくさんの親子づれでいっぱい、スタジオにはギターを背負った学生が、学習室は満杯状態で整理券を配るほどの若者が、放課後ともなりますと子どもたちが、真っ先に卓球などで開放している多目的ホールに走ります。子どもたちや青少年の笑顔が輝くような拠点施設で本当に楽しい声が館内に響き渡っています。阪急山田駅前に位置し、多世代の人たちが出会ったり、知り合いになったり、時を過ごしたり、みなさんにとって楽しい居場所を提供しています。ぜひお立ち寄りください。

問合せ：夢つながり未来館青少年活動サポートプラザ
(直通 06-6816-8552)



大人の考え、子どもの気持ち…その3

保護者（家庭）と学校が協働し、どのようにして子どもを育てていくか。今回は、保護者との関係を踏まえ、学校における子育てについて考えてみます。

学校現場では、学校教育の根幹である教育方針において、従来から「知育・徳育・体育」のバランスのとれた子どもを育成するという大きな目標のもと、教職員全員で日々教育活動に携わってきました。この点については、今も一昔前も変わりはありません。しかし、これらの目標を達成するための学校運営や少人数指導をはじめとする教育方法などでは、かなりの違いや変化が見受けられるようになりました。最大の違いは、「開かれた学校づくり」ということです。簡単に言いますと、学校を開くことで保護者や地域のいろいろな組織・団体から学習のこと、学校行事のことなど学校教育全般に対する評価をいただき、それらを教育実践に生かしていくという考えです。かつて学校現場は閉鎖的であるとの批判を受けている時期もありましたが、今後は一層保護者や地域の人たちと協働し、子どもを育てよう、見守っていこうという姿勢なのです。

現代の子どもたちを取り巻く状況には、いじめ、不登校など厳しく大きな教育課題があります。これらの課題に対応し教育効果を上げるべく、学校には教職員以外にも多くの職員が配置されています。例えば、すべての小学校入学直後の児童に対しきめ細かな指導を充実するための支援者「スターター」を、また、子どもたちや保護者の悩み・相談に応じてくれるカウンセラーなど…。このように、様々な大人たちが、子どもたちの成長をしっかりと支えています。



学校と保護者が子育てへの考えや願いを共有し、協働して取り組まなければ教育効果は上がりません。今後も、学校は保護者との信頼関係を強固にし、子どもたちの力と可能性を信じ、子どもたちの行動や活動を温かく見守って行きたいものです。子どもが主役であることを忘れないように、一人ひとりが光り輝くことを願いながら…。

次号では、現在起こっている子どもに関わる諸課題から、子どもの人権について今一度子どもの姿を見つめなおす中で考えていきます。【次号へ続く】

（事務局 半田久則）

あなたも人権啓発推進委員になりませんか！

人権啓発を目的に、各地区でいろいろな活動が行われています。あなたも人権啓発推進委員になって、一緒に活動しませんか。…下記の人権協事務局までお問い合わせください。…

吹田市人権啓発推進協議会 事務局：吹田市 自治人権部 人権平和室 内
〒564-8550 吹田市泉町1-3-40
電話 06-6384-1539 FAX 06-6368-7345
E-mail suitajinken@wi.kualnet.jp

つながりを求めて

この度の東日本大震災は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。吹田市への避難者は約70人いますが、この方々への支援を目的に、8月に「復興支援すいた市民会議」が立ち上げられました。代表の谷川一二さんに、市民会議の立ち上げの経緯やスタッフの皆さんのご苦労や想い、また、今後の自然災害への備えについてインタビューをしました。



交流会 すいたん登場

吹田市へも被災者が避難で移ってこれ、義援金以外でも吹田市民として何かできないだろうかという声が出てきました。しかし、いざ支援をするにしても、自治会や市内各種団体、ボランティア団体同士のつながりがほとんどなく、一緒に何かできる状態ではありませんでした。そんな中、各ボランティア団体へどのような支援ができるかを出示てもらい、同時に、避難者へも何を必要としているのかアンケート調査をしました。避難者のニーズとボランティアの支援をコーディネートする役割として、まず「（仮称）吹田市復興支援市民会議」を有志でつくりました。

市内にいる避難者同士のつながりがほしいという避難者からの声に対し、ボランティア団体と協力して交流会を企画し、7月3日（日）に第1回目を開催しました。支援活動を進めるにつれ、食事会の材料費などの資金調達や管理方法などの課題が出てきました。これらの課題について、組織運営も含めた会則で明確にすることとなり、8月に「復興支援すいた市民会議」が立ち上がりしました。

私は当初からお世話させて頂いており、市民会議の代表となりましたが、避難者やスタッフからの様々な意見・提案を活動につなげていくというコーディネーターとして、スタッフ、地域の方々とともに活動を進めています。

私たちは、子どもの目線に立って支援をしていこうと思っています。子どもの時の印象や経験は大人になっても残っていくもので、私たち大人が子どもの未来をつないでいかなければなりません。このような想いを持ちながら、第2回目の交流会〔9月4日（日）〕では、食事だけでなく子どもが自由に遊び、元気になるような内容にしました。交流会では、ある母親が涙ながらに語られる場面もありましたが、一方では、子どもたちの笑顔を見ることもできました。このように手探りではあるものの、皆さんの力で支援を進めています。

吹田市では、今は災害もなくいつもの生活ができていますが、災害はいつ、どこで起こってもおかしくありません。日頃から地域でのつながりが大切であることを今回の大震災で再認識しました。

今後も、私たち市民による自主的な活動を続けていきたいと思っています。



交流会 親子で楽しく

～インタビューを終えて～

谷川さんには、お忙しい中を1時間以上にわたってたいへん熱っぽく語っていただきました。災害に対する備えでは、地域の皆さんの普段からのつきあいやつながりが大きな力になるということを、改めて認識しました。